

第82回日本農業教育学会大会 公開シンポジウム・総会・研究発表会 プログラム

主催：日本農業教育学会

1. 期日 2024年11月9日(土)～11月10日(日)

2. 会場 琉球大学農学部
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1

3. 大会実行委員会

実行委員長：鬼頭 誠(琉球大学農学部)
実行委員：浅野 陽樹(鹿児島大学教育学部)
：波平 知之(琉球大学農学部)
：玉木 陸斗(東京農業大学宮古亜熱帯農場)

実行委員会連絡先：

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学農学部 鬼頭 誠

TEL：098-895-8785

E-Mail：kitou@agr.u-ryukyu.ac.jp (鬼頭)

4. 日程

11月9日(土)

13:30～16:00 公開シンポジウム(農学部棟2階 206教室)

18:00～20:00 交流会(おもろまち駅近くの「舞天」)

11月10日(日)

9:30～11:00 研究発表会1(農学部棟2階 206教室)

11:10～11:40 ポスター発表コアタイム(農学部棟2階 203教室)

13:00～14:00 総会(農学部棟2階 206教室)

14:00～16:30 研究発表会2(農学部棟2階 206教室)

口頭発表では、発表者のPC、タブレットを利用してください。接続はHDMIのみですので、必要な方は各自でアダプターをご準備ください。

ポスター発表のポスターは画鋏で貼り付けることが禁止されています。申し訳ないですが、こちらで用意する養生テープをご利用ください。ポスターは10日午前9時から貼り付けていただいで結構です。

また、両日とも大学の食堂・売店は営業しておりませんので、10日の弁当を予約していない方は、各自で持参していただくか、近隣のコンビニなどをご利用ください。

5. 公開シンポジウム [11月9日(土) 13:30~16:00 農学部棟2階 206教室]

テーマ 琉球伝統文化と教育

趣 旨

日本の各地域には伝統文化が伝承されており、現在の生活の中にも溶け込んでいるものもあります。沖縄県を中心とした地域は、過去には琉球王国として日本とは別の国であり、異なった文化を形成してきました。その中で農業に関連した食文化と植物を材料とした工芸品についての紹介と、現状について紹介するとともに、これら文化の継承について話題を提供し、地域の伝統文化の継承と教育の関わりに、日本各地の伝統文化の教育、体験の実践をしておられる方々と議論が深まれば幸いと考えています。

シンポジウム次第

[大会開始]

学会長挨拶 上地 由朗 (東京農業大学)
大会実行委員長挨拶 鬼頭 誠 (琉球大学 農学部)

[第1部：講演]

司会：鬼頭 誠 (琉球大学 農学部)

講演：

「琉球伝統食品と教育」

宮國 由紀江 (薬膳琉花)

「琉球伝統工芸と教育」

松本 由香 (琉球大学 教育学部)

[第2部：パネルディスカッション]

コーディネーター：鬼頭 誠 (琉球大学 農学部)

パネリスト：宮國 由紀江 (薬膳琉花)

松本 由香 (琉球大学 教育学部)

6. 交流会

日時 11月9日(土)18:00~20:00

場所 おもろまち駅 徒歩5分程度

舞天 (https://kai-booten.jp/booten_honten/)

シンポジウム後、路線バス(98番)は17:00発(おもろまち駅17:33着)しかありません。

なお、会場の店はすべてコース料理になりますので、事前申し込みされていない方の参加には対応できません。ご了承ください。

日本農業教育学会

参加者

8. 研究発表会（口頭発表・ポスター発表）[11月10日(日)]

口頭発表1 9:30～11:00 農学部棟2階 206教室（発表12分、質疑応答3分）

9:30～10:15 座長：鎌田 英一郎（長崎大学教育学部）

1) 地域と子供たちと植物遺伝資源の利活用を考える

－琉球伝統食を民族植物学の視点から食育へ－

○玉木 陸斗^{1,3}・下地 清雄²・平良 舟江²・上野 千晶³・玉城 享子³・朝井 信行³・
山田 沙紀³・北林 大³・津嘉山 千代³

¹東京農業大学宮古亜熱帯農場・²沖縄県立宮古総合実業高等学校・³Slow food®Ryukyus3

2) 地域にねざした小学校における イネ栽培学習の実践活動とその効果

○牧川雪乃¹・中山美和²・上地由朗³

¹上川農業改良普及センター士別支所・²狛江第三小学校・³東京農業大学

3) 学習指導要領教科「農業」の目標を基にした農業高校スクールミッションの設定の課題とその対応 ～「担う」・「貢献」の使い方について～

○陳内 秀樹 山口大学

10:15～11:00 座長：水野 真二（日本大学生物資源科学部）

4) 高等学校の農業で学ぶ森林・林業の教育内容の構成の再検討

－「学習指導要領」の変化と環境学習に対応して－

○井上真理子 森林総合研究所多摩森林科学園

5) 教育がもたらす農業の可能性

○野田 勝二¹・臼井 克彦²・水流 勇男²・塚越 覚¹・小原 均¹・高垣 美智子¹

¹千葉大学・²株式会社 Loco Door

6) 農業就労に関する大学生の意識

○野田 勝二¹・富岡 弘典²・立花 浩司³・馬上丈司³・倉阪秀史¹

¹千葉大学・²株式会社つなぐファーム・³千葉エコ・エネルギー株式会社

ポスター発表 11:10～11:40 農学部棟2階 203教室

1) ガーデニングワークショップにおけるインクルーシブ教育

ハツカダイコンの種まきワークショップ実施・改善を事例に

○林 典生 南九州大学

2) ランタナの草姿に及ぼすピンチ回数およびわい化剤の影響

○新海 翔子¹・矢ヶ崎 優子¹・小池 安比古¹・後藤 樹也²

¹東京農業大学農学・²カネコ種苗会社

3) 農業高校と大学農学部（教職課程）との高大連携プログラムの実践と評価

○中村 元香・飛田 有支・有泉 高史 玉川大学

4) 小学校と地域共同における植物遺伝資源の活用を考える

一島野菜から栽培学習プログラムへの試みー

○西川 真衣子¹・菊野 昌子¹・前川 和昭²・新屋 哲²・村木 愛³・名嘉真 由記^{4,5}・

玉木 陸斗^{1,5}

¹東京農業大学宮古亜熱帯農場・²宮古島市立福嶺小学校・³ぷすぷす農園・⁴沖縄在来研究所・

⁵Slow Food®Ryukyus

5) 自分たちが食べるものを育てることを通して、自然との関係を紡いでいく暮らしの育み方

自然との関係における大切な実践の言語化とそれを用いた実践支援

○林 聖夏・井庭 崇 慶應義塾大学

11:40～13:00 昼休み

13:00～14:00 総会

口頭発表2 14:00～16:30 農学部棟2階 206教室（発表12分、質疑応答3分）

14:00～15:00 座長：玉木 陸斗（東京農業大学宮古亜熱帯農場）

1) 農福連携へのリモートワーク導入による発達障害者の就労継続に関する予備的な検討

就労に影響を与える外部要因の評価方法の検証

○作田 竜一¹・江角 伸吾¹・金子 健太郎¹・千葉 吉史²，吉廣 七星³・木村 眞子¹

¹宮城大学・²順天堂大学・³元法政大学大学院

2) 農業高校生が取り組む特別支援学校と農福連携活動について

○宮田 拓真¹・渡部 夏美²・小島 しほり²・野田 勝二³

¹千葉県立流山高等学校・²千葉県立柏特別支援学校流山分教室・³千葉大学

3) 大学生が持つ栽培活動の不安と失敗事例を取り入れた栽培マニュアルの提案

○鎌田 英一郎¹・佐伯 苑実²

¹長崎大学教育学部，²対馬市立東小学校

4) 農業体験と大学生の能力・スキルの関係に関する予備的調査

○日下 恭輔¹・藤本 雄紀¹・田部田 晋²・松田 夕貴³

¹大阪産業大学・²北陸大学・³北菱電興株式会社

15:00～15:45 座長：藤井 道彦（静岡大学教育学領域）

5) 大学生を主体とした農業実践と発信による地域農業への影響

○藤本 雄紀¹・松田 夕貴²・日下 恭輔¹・田部田 晋³

¹大阪産業大学・²北菱電興株式会社・³北陸大学

6) 農業実習での作業における自己効力感の変化に関する研究

○史 一清・野田 勝二 千葉大学

7) 神奈川県湘南地域に適するマカの作型および採種法

○水野 真二・大澤 陽奈乃・佐藤 健也・大塚 彩海・上吉原 裕亮・立石 亮・小谷 幸司・
新町 文絵

日本大学生物資源科学部

15:45～16:30 座長：浅野 陽樹（鹿児島大学教育学部）

8) 遮蔽と温度の計測によるアサガオの品種と施肥の違いに着目した緑のカーテンの教材化

○藤井 道彦・山内 文斗 静岡大学教育学部

9) 身近な材料を用いた水耕栽培教材開発の試み

根粒菌のダイズ窒素栄養への寄与の視覚化

○新町 文絵・笠原和正・柴田優佳・水野 真二 日本大学生物資源科学部

10) 廃棄物を出さないサツマイモ水耕栽培法の教材化

都市環境における資源循環型水耕栽培モデル教材の構築

○山崎 功 神戸市立大池中学校